

桃谷ロイター実行委員会 大阪府大阪市

多様化した地域コミュニティの相互理解と交流の深化



生野区とまちづくり会社が企画した空き家調査ワークショップに参加

団体設立経緯

古代の遺跡や戦前の家屋が数多く残り、大阪市内でも唯一の“ものづくりの町”として知られる大阪市生野区。全国的に見ても外国人居住者の比率が高く、多様な文化と歴史が混在する地域です。

当団体は、地域に根付く多様な文化、歴史、価値観を重要な魅力であると考え、地域の「人・場所・もの」を調査・取材・編集・発信するために、2016年に設立しました。

当団体では、新旧住民の交流の機会を創出するとともに、地域課題のリサーチと解決への検討・提案を行い、これらの事業を通じて、住民主体のまちづくりを促進し、地域活性化を図ることを目的としています。

活動概要と活動対象範囲

活動概要: 地域の歴史文化や、地域産業を取り巻く現状、4軒に1軒が空き家と言われる生野区の空き家状況、地域の様々なコミュニティと多様な活動、新旧住民それぞれの地域への思い、それらを調査し編集して地域の

ローカル情報誌「桃谷ロイター」として発行しています。また、その過程で浮かび上がってくる複数の地域課題に対して、地域の人々やコミュニティと連携して働きかけています。

当団体では区民の様々な活動を横断しながら、それらの活動を広く平易に伝えることで、地域を良くしたいと思う人々をつなげたいと考えました。

そして、そのような多種多様な情報が集まるメディアを発行することで、世代や国籍、職業、専門分野などの垣根を超えて、異なる価値観を持つ人と人とのつなぐハブになり得るのではないか、そんな思いから現在の活動に至りました。

活動に至った理由や背景

生野区には、地域課題へ働きかける様々な活動がありますが、それらの活動は、地域内外のある一定の限



街を取材して発行する情報誌「桃谷ロイター」。商店街に置かれています。

地域に長く住む乾さんをお迎えして、地域内の神社で開催した「ももがたりサロン」

活動内容と成果

【活動1】情報誌「桃谷ロイター」の継続発行

「桃谷ロイター」は、2017年度に創刊した地域のローカル情報誌です。2018年度の活動では、前年度に発行した0号・1号の発送、そして2号・3号を発行しました。創刊から2年が経ち、取材では私たちも知らない地域の新たな側面を知ることが多く、読者にとっても即物的な情報を得るために媒体ではなく、日常的な営みに寄り添うメディアとして認知されてきました。

同時に本誌を応援したいという声や、他地域でも発行を楽しみにする声もいただくようになりました。本誌を通じて、地域全体への興味関心が少しずつ高まっていると感じます。「桃谷ロイター 0号・1号」配布・発送 「桃谷ロイター 2号」発行 発行日：2018年9月8日

「桃谷ロイター 3号」発行

発行日：2019年3月3日
設置場所：約100カ所

〈生野区内〉飲食店、区役所、図書館、ギャラリー、工房、神社、地域イベントなど
〈関西圏〉飲食店、書店、大学、市民学習センター、アートスペース、ゲストハウスなど

【活動2】リサーチ事業（ロイター誌面・記事取材のための調査）

現在、日本全国の問題と言える少子高齢化や貧困、空き家問題などは、生野区でも危急の課題となっています。

加えてここでは、地域産業の衰退、地域が内包する歴史的な民族問題など、様々な問題が絡み合っています。それらの問題を解きほぐしていくためには、政策や制度の改善だけではなく、既存のコミュニティについて知り、それぞれの存在を肯定しながら、それらを緩やかに包括するような“つ

なぎ手”が必要です。

これらの地域課題は、別の角度から見れば地域の特色や魅力が育まれてきた背景でもあると、当団体では考えています。そのため、問題の背景を知り、地域を革新するのではなく時代に合わせて「再び育てる」とを目指しています。背景にある歴史文化、時代の変化や経済の盛衰による人々の暮らしの変化、町の変化について、時代に翻弄されながらも生野区での暮らしを楽しんでいる方々、自分自身の生き方や仕事に誇りをもっている方々、生野区の魅力に魅せられ引っ越してきた方々から直接お話を聴き、お話会の開催や「桃谷ロイター」の紙面づくりに生かしています。

〈リサーチ1〉 ももがたりサロン
第2回「乾さんお話会」

「ももがたりサロン」は、生野区の町や暮らし、歴史などについて、地域の方々からお話を聴き、住民同士の交流や地域への理解を深める会です。第2回では、長くこの地域に住み、町の移り変わりをずっと見めてきた乾さん（84歳）をお迎えし、「暮らしの中の楽しみ」をテーマにお話を伺いました。

開催日：2018年5月28日

場所：彌榮神社社務所（生野区桃谷2-16-22）

語り：乾 昌弘さん（84歳）

〈リサーチ2〉 空き家調査

生野区では、建物の老朽化や少子高齢化に伴う空き家の増加が大きな地域課題になっており、現在4軒に1軒が空き家といわれています。しかしそれらの物件には、美しい建具や風変わりな間取り、そして長屋が生み出す趣のある路地があり、現在の新築住宅にはない魅力があります。

当団体ではそれらの物件を調査し、利活用の可能性を模索するとともに、住居や活動の場所を探している人とのマッチングに取り組んでいます。

●測量会

生野区のなかでも空き家が多く密集する地区で、近所の住民とともに空き家の測量会を行いました。近隣住民の方とともに実施することで、空き家をネガティブなイメージで捉えるので



空き家調査では測量メモを作成



取材活動の様子
左上: 松野農園
右上: 革友禅タケ
グチの竹口さん
左下: 引っ越しして
きた方にインタ
ビュー
右下: 銭湯「源ヶ
橋温泉」を訪れる



地域イベントへの出店
や自主イベントの様子
左上: 神社の境内で開
催された親子イベント
右上: 紙面発刊記念の
交流イベント 左下:
鶴橋鮮魚市場の屋上イ
ベント「純喫茶ももだ
に」 右下: 紙面発刊
交流イベントでの革友
禅ワークショップ



区内の職人や
メーカーと共に
共同した「生野
プロダクト」の試作品



ではなく、住みよい町をつくるための新たな可能性として考えるきっかけになりました。

●改修のための調査（活用提案）

空き家（長屋）を改修して活動の場をつくりたいという人へ物件を紹介し、改修のために現地を調査しました。今回は残念ながら実際に活用してもらうことはできませんでしたが、今後、様々な人に活用してもらうための課題や改善点について検討することができました。

●区の空き家調査とまちあるき

生野区とまちづくり会社企画のワーカーショップに参加し、区の空き家の現状（数、状態、地価など）を調査し、活用の可能性を考察しました。

〔リサーチ3〕紙面のための取材

2018年度は、生野区東部を中心に行なった。かつて生野区で隆盛を極めたレンズ産業、様々な人が集う地域のコミュニティ農園、若手クリエイターやソーシャルワーカー、河内音頭の歌い手や友禅染めの職人さんなど、幅広い世代、属性の方々にお話しを伺うことができました。（内容は、桃谷ロイター2号・3号参照）

●取材先

船井巧さん、森本熟子さん：生野区が発祥の地といわれる眼鏡レンズの製造工場を経営していた経営者の御子孫

松野農園：生野区のコミュニティ農園
源ヶ橋温泉：建物が国の登録有形文

化財である生野区の有名銭湯

新野恭平さん：生野区の商店街でガラス工房を運営する若手クリエイター
ミキティさん：生野区に引っ越し、幅広い活動を展開する人

室谷智子さん：役者仲間との活動場所を探して、生野区の空き家見学に来た若手役者

田中康博さん：生野区で生まれ育った現役の河内音頭の歌い手

竹口昌昭さん、振一郎さん：親子で革友禅の染めと加工を手がける職人

OPEN HEART：生野区民の隠れた交流の場となっている駅前の老舗スナック

nyi-ma：幅広い客層があつまる漫画喫茶であり、バーであり、ギャラリーでもある空間

【活動3】イベント事業（収益事業）

当団体の活動を持続させるための基盤づくりの一環として、イベント事業（収益事業）を実施しました。情報誌で収入を稼ぐためには、広告収入を得るということが最も手近な方法だと思いますが、地域の人々の暮らしに寄り添うメディアでありたいと考える本誌では、「広告収入」について慎重に考えていくべきと思っています。

【活動4】未来の収益事業のための仕組みづくり長期プロジェクト

生野区は大阪市内で最も製造事業所が多い“ものづくりの町”であり、優れた技をもつ職人さんが数多くおられます。しかし、製造業は現在衰退

を当団体の広報および収益事業の一環と位置づけ、活動持続のための基盤の1つにしたいと考えています。

●地域イベントへの出店

①神社の境内で開催された「流しうめんの会」への出店（喫茶in弥栄神社）
場所：彌栄神社境内（生野区桃谷2-16-22）

開催日：2018年7月28日

内容：神社の境内で開催された親子イベントに屋台を出店しました。

②鶴橋鮮魚市場屋上イベントへの出店（つるはしキャンプ）
場所：鶴橋鮮魚市場屋上（生野区鶴橋2-5-14）

開催日：2018年12月1日

内容：「つるはし鮮魚市場大感謝祭」の一環として行われた屋上イベントへ参加し、純喫茶を開店しました。

●桃谷ロイター交流会

場所：ギャラリー KONOMURA（生野区桃谷2-10-19）

紙面発刊交流イベント夏

開催日：2018年8月24日、25日

参加者：約60名

紙面発刊交流イベント冬

開催日：2019年3月10日

参加者数：約50名

の一途を辿り、新たな道を模索し続ける人もいれば自分の代で家業を辞める決意をされる人もいます。

当団体ではリサーチ事業のプロセスで、そのような現状と素晴らしい職人技と製品の数々を知り、何かできることはないかと考えました。そこで、当団体の持続的活動の基盤づくりと生野区のものづくりのPRを兼ねて、新たな「生野プロダクト」を共同で開発し、活動への協賛に対する特典にすることにしました。また、地域の飲食店から「桃谷ロイター」専用の配架ラックがほしいとのご要望を受け、そちらも職人さんとともに検討。2018年度はこれを試作しました。

●生野プロダクト

- ・ドリップスタンドの試作
- ・協賛特典となる「桃谷おちょこ（仮）」の試作
- ・情報誌「桃谷ロイター」専用ラックの開発・考案



活動エリア。大阪市の東側に位置する

課題と解決方策

空き家活用においては、物件オーナーに対する事業計画の提案が大きな鍵になると感じています。これにはオーナーの要望や心情と周辺住民の希望を上手く擦り合わせていく必要があり、時間をかけて計画していく必要があると考えています。

この1年のチャレンジで、イベント事業である程度の収益が見込めることに分かってきました。一方、まだまだ試行錯誤の段階で、安定しているとは言い難いところがあります。

引き続きイベントの性質に合わせたメニューや価格帯などの検討と、活動を応援していただきやすいアイテム（オリジナル菓子など）の開発に取り組むとともに、メンバーの拡充を図りたいと考えています。

同様に、収益面での協賛金の獲得についても、応援していただきやすい

仕組みづくりを考えています。ものづくりが盛んな生野区の特性を活かした「生野プロダクト」を協賛特典としてすることで、ものづくりのPRも兼ねた地域活性につながる仕組みとしていきたいと考えています。

今後の予定

地域の歴史と現状を調査し、相互理解を促すための情報誌「桃谷ロイター」の発行と、それをPRし、当団体の収入源となる「イベント」、この両輪がメイン事業です。

加えて、取材によって浮き彫りになった様々な地域課題に対して、メンバーそれぞれの職能を活かして直接働きかけるために、デザイン・マネジメント事業に着手したいと考えています。また、当活動への協賛を得る仕組みを整備し、2018年度に試作した「生野プロダクト」の本格的な製作を開始する予定です。

●桃谷ロイター実行委員会

設立年月	2016年11月
メンバー数	7人
代表者名	伊藤 千春（いとう・ちはる）
住所	〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷2-10-21
電話	090-3841-5080
Eメール	momodaninoneko@gmail.com
ウェブサイト	http://momodaniloiter.com/
FBページ	https://www.facebook.com/momodaniloiter/

【団体のミッション】生野区の多様な文化、歴史、価値観は重要な魅力です。地域の「人・場所・もの」を取材・編集・発信し、新旧住民の交流の場を創出するとともに、地域課題の検討と提案を通して、地域活性化を図ることを目的としています。